

蔵王山の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

蔵王山では、本日（19 日）04 時 38 分頃に振幅の大きな火山性微動が発生しました。傾斜計^{1）}では微動発生に先行してわずかな南東上りの変化がみられました。

2014 年 8 月以降、火山活動の高まりがみられます。過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図 1～3）

19 日 04 時 38 分頃に振幅の大きな火山性微動が発生しました。坊平観測点（山頂の南西約 5 km）の観測では、最大振幅（上下成分）は $5.3 \mu\text{m/s}$ と、2013 年 1 月以降発生している微動の中では 2 番目に大きなものでした。継続時間は約 1 分 20 秒と短いものでした。蔵王山で火山性微動が観測されたのは、先月（2014 年 11 月 19 日）以来です。

微動発生前後に火山性地震は観測されていません。

蔵王山では昨年（2013 年）1 月に火山性微動が発生して以降、地震活動がやや活発な状況が続いています。また、今年の 8 月以降は火山性微動の発生頻度が多い状況となっています。

・地殻変動の状況（図 3）

坊平観測点の傾斜計^{1）}で、微動発生に先行してわずかな南東（山頂の南側）上りの変化がみられました。GNSS^{2）}による山体およびその周辺の地殻変動観測に特段の変化はありません。

・噴気など表面現象の状況

遠刈田温泉（山頂の東約 13km）及び上山金谷（山頂の西約 13km）に設置してある遠望カメラでは、丸山沢の噴気に異常は認められず、御釜付近の状況は雲のため確認できません。

気象台では火山活動を注意深く監視しています。今後、更なる活動の活発化がみられる場合には、噴火警報等を発表します。

1）火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

2）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

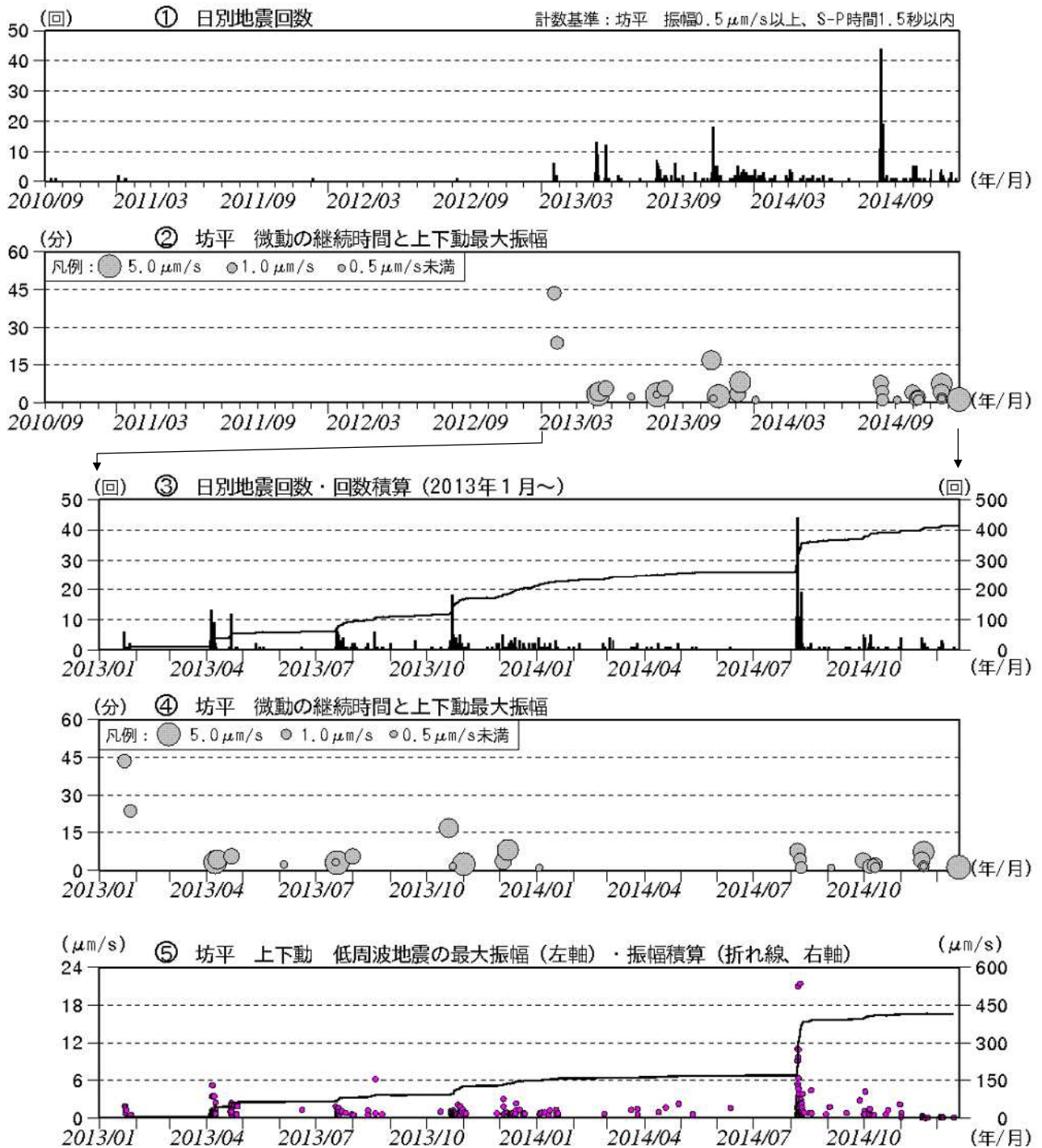


図1 蔵王山 火山活動経過図 (2010年9月～2014年12月19日)

- ・2010年9月1日から観測を開始しました。
- ・回数は速報値で精査後修正される可能性があります。

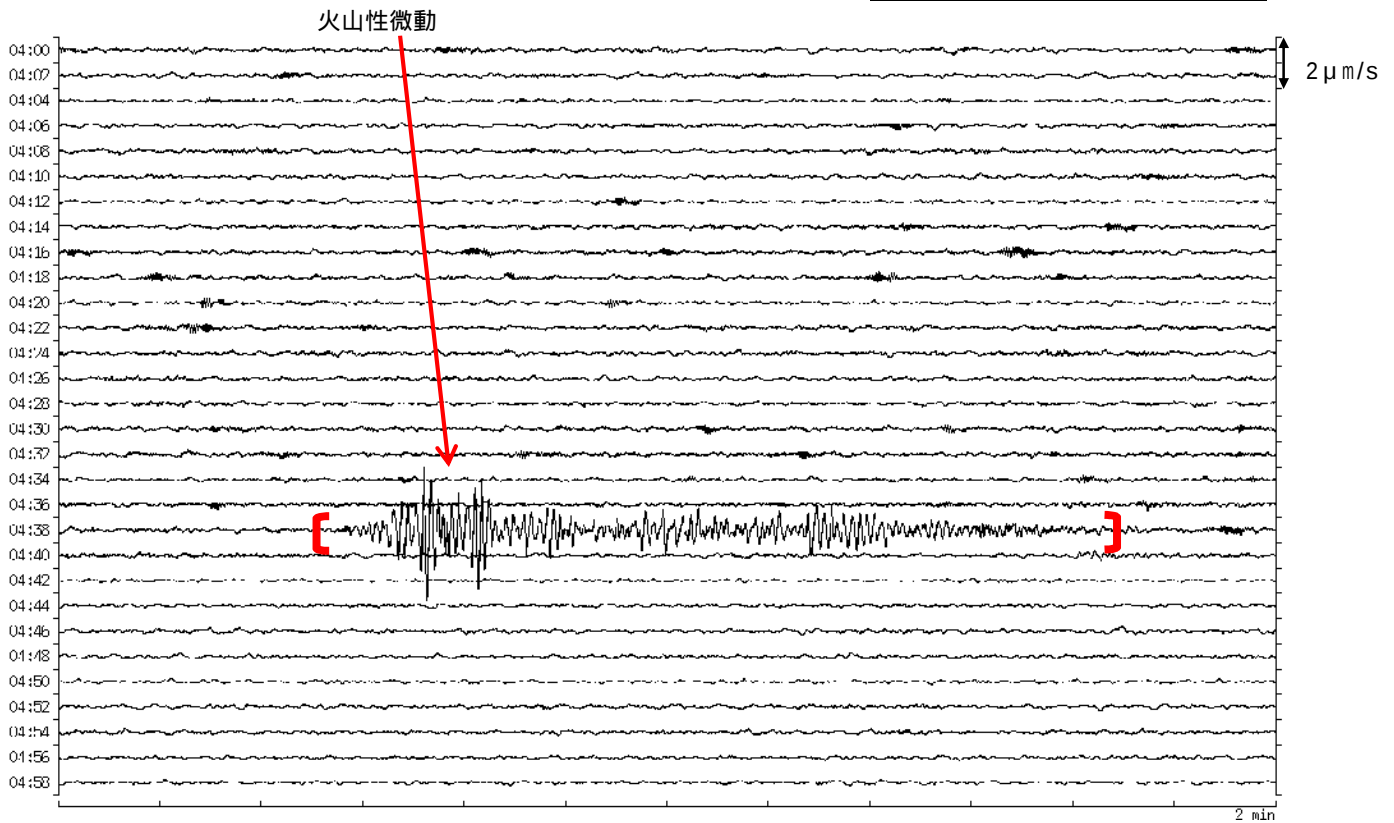


図2 蔵王山 坊平観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2014 年 12 月 19 日 04 時 00 分～05 時 00 分)

・ [] は火山性微動を示します。

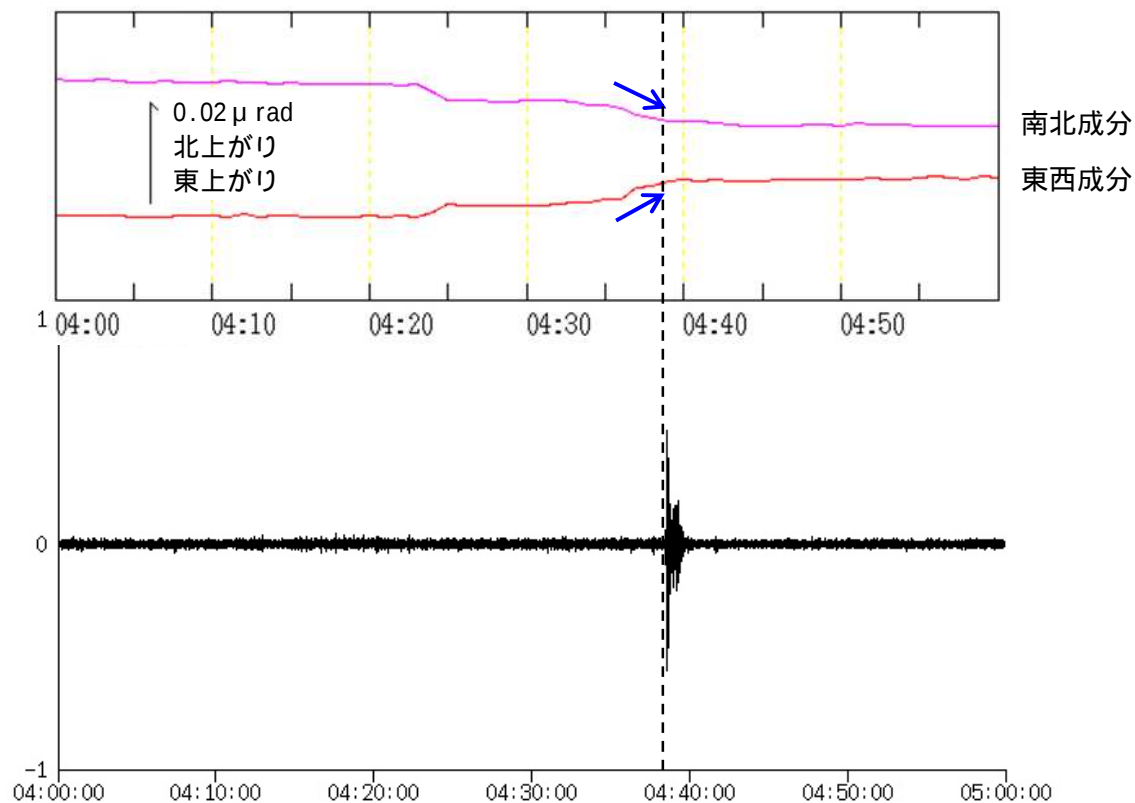


図3 蔵王山 坊平観測点での傾斜変動および火山性微動波形
(2014 年 12 月 19 日 04 時 00 分～05 時 00 分)

・ 黒破線は火山性微動の発生時を示します。最大振幅は $5.3 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は約 1 分 20 秒です。
・ → は傾斜計の変化傾向を示します。

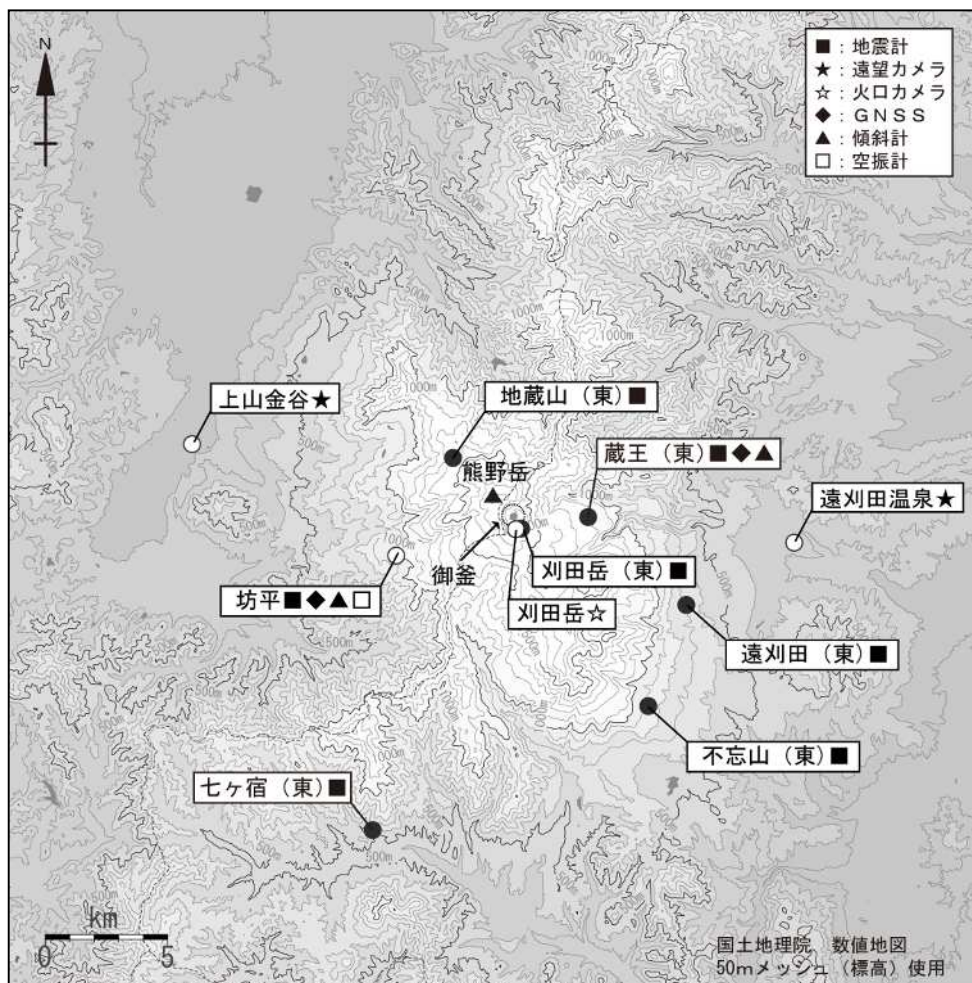


図4 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

刈田岳火口カメラは、冬季の観測を取り止めています。

(東)：東北大学